

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」個別事業の評価一覧

事業の評価										予算			担当課				
■ 施策(5) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進										予算			※太字が評価を記載した課				
【Plan】計画				【Do】実施				【Check】評価	【Action】改善		予算						
柱番号	事業番号	事業名	事業概要	前年度の評価を踏まえての改善	27年度の事業計画	27年度の主な実績	活動指標	区分	27年度	28年度	29年度	評価		評価の理由(分析)	次年度以降の課題や改善内容	予算事務事業名	決算額・次年度予算額【千円】
1	77	北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会の運営(仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業)	全国に先駆けて、企業・働く人・市民・行政が一体となって設立した「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進に取り組む。企業等の事業者や働く人が働き方やライフスタイルを見直し、男女が共に働きながら子育てしやすい環境づくりを推進するため、企業への取り組み支援や広報啓発事業を展開する。	・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、様々な企業・団体等と一層連携を深める。 ・より多くの企業等や働く人に直接働きかけていくことで「実践」を通じた成果実現につなげる。	①ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣事業の実施 ②企業等への出前セミナーの実施 ③ダイバーシティネットワーク活動 ④女性活躍推進取組支援事業	①15回 ②9社 ③5回 ④7社	研究会・企業への助言等 【現状値】 24件(H26年度) 【目標】 35件(H31年度)	単年度 27年度 27件 29件 31件 累計 36件 達成率 133% 計画目標 133%	大変 順調	・ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣事業等の企業の活用件数が、目標値を上回ったため、「大変順調」と判断。	【課題】 ・女性活躍推進法の成立を踏まえ、同法が規定する協議会組織を念頭に「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心とした市内推進体制をより充実する必要がある。 【改善】 ・市内企業等の意見を踏まえながら、効果的な推進体制について検討、改善する。	ワーク・ライフ・バランス推進事業	決算 13,508の一部 予算 11,314の一部		総務・女性活躍推進課		
1	78	ワーク・ライフ・バランス表彰の実施(仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業)	子育て支援や男女が共に働きやすい環境づくり等に取り組む企業・個人等を表彰し、お手本としてその内容を広く紹介することで、企業等事業者や市民がワーク・ライフ・バランスに取り組むよう働きかける。	・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、様々な企業・団体等と一層連携を深める。 ・より多くの企業等や働く人に直接働きかけていくことで「実践」を通じた成果実現につなげる。	①第9回ワーク・ライフ・バランス表彰の実施	①企業3社、個人1人の計4社(人)に表彰	表彰企業数(累計) 【現状値】 累計 50社(H26年度) 【目標】 75社(累計)(H31年度)	単年度 55社(人) 60社(人) 65社(人) 累計 54社(人) 達成率 98% 計画目標 72%	順調	・第9回ワーク・ライフ・バランス表彰では、企業・団体部門で市長賞1社、奨励賞2社、個人部門では市長賞1人の計4社(人)が受賞した。より受賞した企業等のインセンティブを高めるため、授賞式の方法を改善したり、ゆめみらいワークに受賞企業を紹介する等の取組みを実施したため、「順調」と判断。	【課題】 ・引き続き受賞企業のインセンティブを高め、受賞企業の拡大につなげる必要がある。 【改善】 ・受賞企業に関する情報発信の機会を充実する。	ワーク・ライフ・バランス推進事業	決算 13,508の一部 予算 11,314の一部		総務・女性活躍推進課		
1	79	企業や地域等でのワーク・ライフ・バランスの取り組み支援(仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業)	企業等の事業者に対して、仕事と子育て等との両立への理解促進や働きやすい職場環境づくりを働きかける。また、毎年11月をワーク・ライフ・バランス推進月間とし、その意義や必要性を企業等事業者や市民に周知する。 ○ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣事業 ○企業等への出前セミナー ○子ども参観日 ○ワーク・ライフ・バランス新聞の配布	・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、様々な企業・団体等と一層連携を深める。 ・より多くの企業等や働く人に直接働きかけていくことで「実践」を通じた成果実現につなげる。	①ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣事業の実施 ②企業等への出前セミナーの実施 ③ダイバーシティネットワーク活動 ④女性活躍推進取組支援事業	①15回 ②9社 ③5回 ④7社	研究会・企業への助言等 【現状値】 24件(H26年度) 【目標】 35件(H31年度)	単年度 27年度 27件 29件 31件 累計 36件 達成率 133% 計画目標 133%	大変 順調	・ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣事業等の企業の活用件数が、目標値を上回ったため、「大変順調」と判断。	【課題】 ・ワーク・ライフ・バランスの実現にあたっては、企業の果たす役割が大きく、女性活躍推進法の成立を踏まえ、両立環境の整備・女性従業員の人材育成双方の視点から企業をサポートしていく必要がある。 【改善】 ・企業ニーズをきめ細かに把握しながら、サポート策を充実するとともに、企業間のネットワークを構築する。	ワーク・ライフ・バランス推進事業	決算 13,508の一部 予算 11,314の一部		総務・女性活躍推進課		

事業の評価										予算			担当課				
■ 施策(5) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進										予算			※太字が評価を記載した課				
【Plan】計画					【Do】実施					【Check】評価	【Action】改善	予算					
柱番号	事業番号	事業名	事業概要	前年度の評価を踏まえての改善	27年度の事業計画	27年度の主な実績	活動指標			評価	評価の理由(分析)	次年度以降の課題や改善内容	予算 事務事業名	決算額・ 次年度予算額 【千円】	備考		
							区分	27年度	28年度							29年度	
1	80	市役所におけるワーク・ライフ・バランスの推進	職員のワーク・ライフ・バランスを推進するため、「第三期特定事業主行動計画」に基づき、各種研修や啓発活動等による職員の意識改革、仕事の見直し・改善、仕事と子育ての両立支援等について取り組む。	・第三期特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム」に基づき、すべての職員のワーク・ライフ・バランス実現に向けた取組みを着実に実施する。	①パパママ応援・子育て&仕事両立サポート研修の実施 ②ワーク・ライフ・バランス推進月間の実施 ③テレワークのトライアル(施行導入)の実施 ④WLB実践モデル部署研修の実施	①2回 ②1回 ③25人 ④2部署	ワーク・ライフ・バランスが取れていると感じる職員の割合	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	順調	・テレワークのトライアルや「ワーク・ライフ・バランス実践モデル部署」の実施などにより、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた実践的な取組みの実例が得られた。 ・また、全管理職がイクボス宣言を行い、イクボス表彰では、管理職のマネジメントの優秀事例について部下職員から多くの推薦が上がった。 ・このように業務の効率化や職員の両立支援に向けた取組みが進んでおり、「順調」と判断。	【課題】 ・ワーク・ライフ・バランスの推進を両立環境の整備だけにとどまらず、市役所組織と職員双方のレベルアップにつなげるため、業務改善・人材育成の実践例を積み重ね、市役所内の各部署に広めていく必要がある。  【改善】 ・テレワーク等の事業実施の効果を市役所内に効果的に周知するとともに、各部局の主体的な取組みを促進する。	「女性活躍推進アクションプラン」実施及び市職員次世代育成支援事業	決算	3,812 の一部	
							【現状値】	69.4% (H20年度)	-	-					予測	3,709 の一部	
							【目標】	85% (H30年度)	-	-					達成率	-	
							計画目標	-	-	-					計画目標	-	
							部課長級の多面評価「イクボス10か条」を実践できている管理職の割合	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	順調	・テレワークのトライアルや「ワーク・ライフ・バランス実践モデル部署」の実施などにより、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた実践的な取組みの実例が得られた。 ・また、全管理職がイクボス宣言を行い、イクボス表彰では、管理職のマネジメントの優秀事例について部下職員から多くの推薦が上がった。 ・このように業務の効率化や職員の両立支援に向けた取組みが進んでおり、「順調」と判断。	【課題】 ・ワーク・ライフ・バランスの推進を両立環境の整備だけにとどまらず、市役所組織と職員双方のレベルアップにつなげるため、業務改善・人材育成の実践例を積み重ね、市役所内の各部署に広めていく必要がある。  【改善】 ・テレワーク等の事業実施の効果を市役所内に効果的に周知するとともに、各部局の主体的な取組みを促進する。	ダイバーシティ推進事業	決算	3,864 の一部	
【現状値】	※H27年度より実施のため、現状値なし	88.0%	-	-	予測	3,500 の一部											
【目標】	90% (H31年度)	-	-	達成率	-												
計画目標	97.8%	-	-	計画目標	-												
							男性職員の育児休業等取得率	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	順調	・テレワークのトライアルや「ワーク・ライフ・バランス実践モデル部署」の実施などにより、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた実践的な取組みの実例が得られた。 ・また、全管理職がイクボス宣言を行い、イクボス表彰では、管理職のマネジメントの優秀事例について部下職員から多くの推薦が上がった。 ・このように業務の効率化や職員の両立支援に向けた取組みが進んでおり、「順調」と判断。	【課題】 ・ワーク・ライフ・バランスの推進を両立環境の整備だけにとどまらず、市役所組織と職員双方のレベルアップにつなげるため、業務改善・人材育成の実践例を積み重ね、市役所内の各部署に広めていく必要がある。  【改善】 ・テレワーク等の事業実施の効果を市役所内に効果的に周知するとともに、各部局の主体的な取組みを促進する。	ダイバーシティ推進事業	決算	3,864 の一部	
【現状値】	7.5% (H26年度)	8.8%	-	-	予測	3,500 の一部											
【目標】	20% (H31年度)	-	-	達成率	-												
計画目標	44.0%	-	-	計画目標	-												



